



SANJO ROTARY CLUB

三條ロータリークラブ

2008.3.5 (No.2494) 週報 No.33

第2560地区ガバナー／渡辺敏彦
会長／荻根澤隆雄
会長エレクト／中村和彦(クラブ奉仕A)
副会長／菊池渉(クラブ奉仕B)
幹事／杉山幸英
S A A／浅野金治
会計／山田富義

例会日／毎週水曜日 12:30～
例会場及び事務局／
三條市旭町2-5-10 三條信用金庫本店内
例会場／TEL 34-3311
事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail: sanjo-rc@cpost.plala.or.jp
http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
(“はshiftを押しながら“へ”のキーを
押してください)

■本日の出席会員数:63名中43名
■先々週出席率:87.10%

【ヴィジター】

分水RCより

・第4分区AG 藤井三明さん

【先週のメイクアップ】

[2.28] 燕RCへ

・西川文夫さん、渡邊喜彦さん
・石橋育於さん、加藤紋次郎さん
・山田富義さん

[3.2] 米山奨学生送別会へ

・丸山行彦さん



「ロータリーは分かちあいの心」

2007～2008年度国際ロータリーのテーマ



安田の「世界の洋らん展」にて②

会長挨拶

荻根澤隆雄 会長



ご挨拶を申し上げます。

先週は新春親睦例会を二洲様にて開催
させて頂きました。

親睦委員会の企画と熱意のお陰で大変に
多くの皆様からご出席を賜りました事、そ
して大変に和やか且つ盛会で有りました事
に感謝を申し上げます。

親睦委員の皆様、そして会場をお貸し頂
きました石橋さんに対しても御礼を申し上げる次第です。あ
りがとうございました。

また、台湾の洪さんがグッドタイミングで来日、そして当
地へ赴き出席をして頂きました事も何かの縁であります。

そして、米山奨学生のフロレン君が大学卒業後の日程の都
合で皆様にお会いできる日が無いとの事でカウンセラーの丸
山さんの計らいで親睦例会に来て頂きました。フロレン君は
将来において母国のコートジボアールと日本の架け橋となる
べく活躍をして頂く事で丸山さんもカウンセラー冥利に尽き
るのではなからうかと感じます。丸山さん永い間お役目ご苦
労様でした。

そして20名強が参加を致しました二次会ではフロレン君と
川瀬先生が気持良く歌って盛り上がっていました。

さて、中国よりの輸入食品でも有りますところの殺虫剤入
り冷凍食品事件ですが、先日のニュースで日中両国の関係者
の発表内容にかなりの違いがある事に驚愕致しました。

また、中国らしい幕引きでもあったかとも感じましたが、
この事で端を発し両国の関係が凍らない事を願います。でき
れば両国の関係者が同じテーブルで餃子を食べながら関係改
善に努力をして頂く事を願うばかりです。

いま一つですが、もっと大事な報道をしなければならぬマスコミが三浦和義なるロス疑惑事件に傾注した報道をしている事に憂いを感じている此の頃でもあります。

挨拶終わります。ありがとうございました。

幹事報告

杉山幸英 幹事

◎馬場ガバナーエレクト事務所より
2008～2009年度地区役員の委嘱状がとどいていております。

- 2008～09年度 会長エレクト研修セミナー
副実行委員長 小越憲泰さん
- 2008～09年度 地区大会
副実行委員長 樺山 仁さん
- 2008～09年度 地区協議会
副実行委員長 佐野勝榮さん
- 2008～09年度 オン・ツー・バーミンガム委員
中村和彦さん
- 2008～09年度 記念ゴルフ大会
副実行委員長 丸山行彦さん
- 2008～09年度 会員増強委員長 渡邊喜彦さん
- 2008～09年度 職業奉仕委員 山田富義さん

◎新津中央RCより創立30周年記念式典のご案内がとどいていております。

と き 5月18日(日) PM 12:30～

ところ 割烹「新森」

記念コンサート PM 3:30～

加藤登紀子トーク&ライブ

ニコニコBOX

荻根澤隆雄さん

先週の新春親睦例会に多くの会員の皆様よりご参加頂き、誠にありがとうございました。盛会でありましたこと、お礼を申し上げます。

今日は、熊倉先生の卓話楽しみにしております。

杉山幸英さん

藤井AGようこそいらっしゃいました。

熊倉会員の卓話、大変楽しみにしております。

中村和彦さん

熊倉先生、卓話ありがとうございます。今日はどんな話を聞かせてもらえますか？楽しみにしています。

広岡豊作さん

熊倉さん、卓話ご苦労様です。また、先日は大変お世話になりました。ありがとうございました。

日戸平太さん

先週の夜例会、楽しかったので。

熊倉さん、卓話楽しみです。

山田富義さん

藤井AG、久しぶりです。

熊倉さん、卓話楽しみにしています。

渡辺勝利さん

三寒四温、春の訪れを期待して。

小林敬典さん

先週は無断欠席すみませんでした。

タイに行って来ました。真面目な仏教国の人という印象を受けました。

明田川賢一さん

熊倉先生の卓話を、藤井AGの訪問を歓迎して。

高森章二さん

私は春の2月生まれですが、名前はあきひとです。

樺山 仁さん

めっきり春めいて来ました。

本日の熊倉さんの卓話を楽しみにしております。

熊倉昌平さん

藤井三^{ミチ}明AGを歓迎申し上げます。

川瀬康祐さん、 外山雅也さん、 野水文治さん、
丸山行彦さん、 金子俊郎さん、 石月良典さん、
平原信行さん、 斎藤弘文さん、 石塚欣司さん、
高橋 司さん、 藤田紘一さん、 会田二郎さん、
五十嵐昭一さん、 成田秀雄さん

熊倉さん、卓話ありがとうございます。

楽しみにしております。

石橋育於さん

大変すみませんが、早退させていただきます。

小越憲泰さん

今日は熊倉会員の卓話楽しみなのですが、都合により早退させていただきます。

3月5日分 ￥ 32,000

今年度累計 ￥1,084,500

本日はAGとしまして

第4分区アシスタントガバナー 藤井三明 殿



だいぶ春らしくなつてまいりました。本日はAGとしまして、満期満了を迎え、お別れと御礼を申し上げにまいりました。昨年の今頃は心の準備をしないまま、分水がAGの当番だったため第4ブロックのAGを受け入れていたのです。

渡辺年度も残すところ3ヶ月となりましたが会員増強、財団、米山日本一に向けた自己ベストを重点目標としてまいりました。まだ、6月まで任期が残されておりますので最後までよろしく申し上げます。

私にとってこの一年間はなんだったのか一言で言うと、天妻だったと思います。天妻のさいは妻と言う字を書きます。あんたロータリーを取るのか私をとるのかと…。私にはロータリーが天から降ってきたようなもので、そこで私を助けてくださったのが荻根澤会長さんであり、杉山幹事さんであります。そのため、親クラブでいらっしゃいます三条クラブには足を向けて眠ることができません。特に8月1日のガバナーの公式訪問の際は大変ありがとうございました。

さて、米山は日本一のところは、2万8千円だそうです。日本一になるためにお一人1万円の寄付をお願いします。ロータリー財団は全国一位になるには200ドル、ナンバー1になるためにはお一人100ドルのご寄付をお願いいたします。

5月末までにお振込みをお願いします。三条クラブは地区で米山が第36位、分区で4位になっております。5月末までに振り込みませんと今年度の実績になりませんのでよろしく願い申し上げます。

会員増強と退会防止ですが、2月9日にセミナーを行いました。純増で51名で全国8位の成績です。三条クラブでの7人が功績をあげています。アンケート調査で会員増強5%のこと、日本No1を目指していることを知っている人が少ないことも明らかになりました。時代と共に高齢化が進んでいます。若い人に声を掛けるとか、ご婦人に声を掛けるなど対策を講じてほしいと思います。

最後に三条クラブは50年を迎えられ、さらに長い歩みが続けいらっしゃいます。ロータリーを理解して欲しいと思います。日本の童謡の中でめだかの学校があります。その歌詞の中にロータリーのありかたがあるかに思います。この歌詞のなかに「誰が生徒か先生か…」などと傍からは区別がつかないと

うたっています。ロータリーも同じでアシスタントガバナーも、会長も委員長さんも委員もみな平等です。これがロータリーのあり方だと私は学びました。私もAGを外れるとなかなか来れなくなるでしょう。皆様と出会ったことに感謝して御礼の挨拶とさせていただきます。

卓 話

熊倉昌平 会員



いままでに一番感動した話をします。

それは、美人の話です。その方は大阪の方で三井銀行に就職して、その後ミスインターナショナルコンテストで準ミスインターナショナルに選ばれ、銀行の仕事をしなから任期を勤めていたそうです。その後は退職、上京してファッションモデルをし、大きな仕事もするようになっていたそうです。非常に順風満帆でばら色の人生だったと思います。

ある時、山梨で仕事をして、東京に戻るときにカメラマンの運転する車で中央道を走っていた時、少し前まで晴れていたのに急に曇って雨になり、女性の乗った車は横を走っていたトラックと接触事故を起こしそうになったのです。あわてた運転手が急ブレーキを踏み、その結果、車は横滑りをしてトラックにぶつかりクルクル回り始めました。助手席のドアが開き、助手席に座っていた男性デザイナーが外に放り出され全身を強く打って死亡。後部座席に座って居眠りをしていた女性は後ろの窓ガラスを突き破って100メートル程飛ばされ、路肩の上に落ち、たまたま土の上に落ちたので命は取りとめたのですが、首の骨を折っていたのです。

手術を終え、病室で天井を見ているだけの毎日の中でみんなに声を掛けられてもただ事ではないんだと感じながら、一方でこれはケガなのだから必ず直ると漠然と考えていたそうです。一週間後、主治医に「今の医学で折れた首の骨は矯正できるだろうけれどその中を通っている神経をつないで直すことはできないだろう。気を強く持って生きていってください。」と言われたそうです。話を聞いたときは驚きとか嘆きといった感情は一切起こらなかったそうです。ただ、信じられず自分のこととして受け止められなかったそうです。でも、日がたつにつれ、現実から事実を受け入れざるを得ないとわかってきたそ

うです。

2ヶ月がたち、リハビリテーションに参加するようになりましたが、そこは想像していたものとは全く違った世界だったようです。動かない足には何もせず、使える腕を鍛えてどれだけ使えるようになるのかといったリハビリだったそうです。リハビリが終われば機械的に病室のベッドに戻され、人間性が否定されているような気持ちになり、一瞬の交通事故が奪っていったものは大きかったと感じたそうです。

その事故の三週間後に結納、翌年の春に結婚式を挙げる予定だったそうです。彼女は事故が結婚の前でよかったと、なぜなら、彼は結婚しないことを選ぶこともできたし、結婚後ならば、世間体や後ろめたさで別れられず、彼女自身も一緒にいての孤独を味わうだろうと思ったそうです。お母さんも退院したら大阪につれて帰ろうと思ったそうです。ここが私もびっくり仰天したのですが、しかし彼は、「ひとみにとって僕が必要なのではなく、僕にとってひとみが必要なんだ」と言ってくれたそうです。この言葉で、彼女も元気付けられ、車の運転を習ったり、おしゃれをするようになったそうです。さらに結婚に際しては誰も反対する人がいなかったそうです。普通は相手の母親が反対するものらしいのですが、彼の母親は「息子にとって大事な人は私達にとって大事な人です。」と言ってくれたそうです。

病院で食事をしているとき、彼から「これからは箸を使って食事をするんだ」と言われ、それまで使っていたフォークのようなものを取り上げられ、いわゆるしつけ箸を持たされたそうです。「時間内に食べ終わらないと看護婦さんに怒られる」と言うのと、食事を紙皿に移し変えて時間がかかってもいいからその箸で食べるようにと言って料理をおいて帰っていったそうです。病院のリハビリは一人でものが食べられればそれで終わりなのです。それ以上のことは自分で努力と工夫をしなければならぬと彼から教わったそうです。

彼女が割りと早くに障害を受け入れることができたのはこの彼の存在が大きかったのだと思います。このような障害を負っていながら、いろいろと外出し、自立できたのは彼の影響が大きかったのだろうと思います。

障害者であることに世間の不幸を一心に背負ったかのように嘆き悲しんでばかりはいられない。治るめどがないならその状態でいかに人生を有意義にすごせるか頭を切りかえるべきと彼女は述べていました。自分が障害者になってより一層生きる機会を与えられたと、そして堂々と積極的に生きていこうと考えるようになったそうです。

この話はロータリーの友2006年1月号に掲載されています。今日は私が感動した話の一つを紹介させていただきます。

次週例会 3月19日 外部卓話 岡田 孝 様

次々週例会 3月26日 クラブ休会

